

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 喜々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	庄内町字四ツ興野123番地		
自己評価作成日	令和 7年 8月 15日	開設年月日	平成 22年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

散歩やバスレク、地域の行事等の外出、施設内レクや行事が多く、様々なクラブ活動も行っており、利用者様に季節を感じながら楽しんで日々を過ごしていただける工夫に努め、自宅にいるようなアットホームな雰囲気の中で交流を楽しめるよう支援しています。また、毎日の食事は利用者様にも手伝って頂きながら手作りで提供しており行事食は豪華にし、皆様に目でも身体でも満足して頂けるよう支援している所が大きな魅力です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 7年 9月 9日	評価結果決定日	令和 7年 9月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には皆で植え育てた花や野菜が彩り豊かに実り、毎年収穫の時期を楽しみにしています。共用スペースには毎月季節感のある装飾が施され、クラブ活動や体操などを活発に行い、長い廊下を活用した歩行訓練や立ち上がり訓練などを通じて、トイレでの排泄を含む日常生活動作の自立に向けた支援に努めています。また毎日旬の食材を取り入れた温かくて美味しい食事が提供され、毎月の行事や誕生会での特別メニューやケーキは利用者の楽しみとなっています。天候の良い日にはドライブに出掛け、地元の祭りへの参加や文化祭への作品出展、敬老会に三味線演奏のボランティアを招くなど地域との繋がりを大切にしながら「安心とくつろぎ」で利用者の生活を支えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」 喜々ユニット

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念を掲示して共有し意識付けを行い、基本理念を職員全員が念頭に置きながらケアにあたり、施設理念とは別にユニット目標や月目標を立てている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長に運営推進会議に参加して頂き、地域の情報交換等を行い、利用者が地域の行事に参加したり相互関係を構築している。地域の一員として散歩やドライブで施設周辺や近隣へ出かける際は、挨拶や会話をしている。余目祭りや文化祭へ作品を出したり等、地域の行事にも参加している。地域にも施設の存在が浸透し交流が持てるよう努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター等にて地域の方や子供達に認知症の理解と知識について発信している。また、職員も研修へ参加をする等し、認知症の人への理解に努めている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や自治会長、福祉課職員や包括支援センターの方々に参加して頂き、施設での取り組み状況の報告や現状を理解して頂けるように努め、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。職員にも議事録を回覧し、内容を共有している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や情報交換での連絡等、協力関係を築いている。困っていること等何かあれば町の担当者を連携し、ケアのサービス向上を図っている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	現在、身体拘束の事案はなく、安全な生活を守るケアに努め、本人の行動等を把握した上で見守りや声掛けをこまめに行い拘束防止に取り組んでいる。2か月に一度の割合で、身体拘束委員会を開催し、拘束の防止、しないための工夫を同系列の小規模多機能型居宅介護と共に情報・意見交換を行ったり、正しいケアが行われているか等の確認を行っている。議事録を回覧し、情報等を全職員へ共有している。研修会等へ参加し、身体拘束となる具体的な行為などを理解し、拘束することの弊害等を学んでいる。	隣接する事業所と合同で拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、研修を通して学びの共有と意識の向上を図っている。帰宅願望のある方や点滴を受けている利用者には職員が付き添い、転倒リスクのある方のセンサー使用もユニット会議で検討し、身体拘束の無いケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会に参加し、虐待について学んでいる。入浴時など身体チェックを行い、虐待防止に努めている。虐待が見逃されることが無いよう、スタッフ同士で確認しながら防止に努めている。虐待防止委員会にて全職員対象に年2回虐待の自己点検チェック表を記入して頂き、抑止力や意識付けに努めている。	年2回自己点検チェックを行い、職員一人ひとりがケアの振り返りと課題や改善点などの気付きを得て、虐待に該当する行為がないかを確認しながら支援し、未然防止に努めている。また「高齢者虐待防止マニュアル」を職員が常時閲覧可能な場所に置き、不適切な声掛けや対応には管理者の指導もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修に参加したスタッフによる研修報告書等で権利擁護に関する制度を理解している。以前、制度を利用した利用者様があり、支援も出来ている。	/		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結等については利用者様、ご家族様に対して十分な説明を行い、理解し納得いただけるよう努めている。ご家族様からの疑問や不安に思われていることを確認し、そのままにせず同意を得られるよう丁寧に説明を行っている。入所後も必要に応じて、その都度説明や書面にて周知を行っている。	/		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の意見等を定期的に聞いており、運営に活かしている。特に利用者様に関しては、日頃の会話や様子から想い等を汲み取れるように努めたり、担当職員が思いや要望を確認しながらアセスメントを作成している。ご家族様は面会時や電話連絡時に意見を傾聴し上司や他職員と話し合い改善に努めている。運営推進会議に参加頂き意見等を頂いている。玄関に意見箱を設置している。	感染症対策と時間制限を設けて居室での面会が再開し、家族等の来訪時や電話対応時には利用者の日常の様子や体調を伝え、要望を聞いてサービスに反映させている。また毎月の請求書と一緒に担当職員からの手紙も同封し、利用者の写真を多数掲載した「喜々・喜々便り」を送付して家族等に喜ばれている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き、運営に活かしている。毎月行われるスタッフ会議にて、意見交換を行っている。何かあればその都度、意見等を述べるこができる環境がある。	/		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備に努めている。各職員の状況に応じた勤務形態にしていく等、職員に合わせた対応をしてくれている。希望休を多く取り入れてくれており、私生活と両立しやすいと思う。職員から異動希望があれば考慮している。	施設目標とユニット目標は職員全員の話し合いで決定し、各自が個人目標を立て上司との面談を通じて目標の振り返りや意見・要望を伝える機会が設けられ相談しやすい環境となっている。また有給休暇の他、年7日の特別休暇等もあり、資格取得の際は手当に反映され働く意欲の向上に繋がっている。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの質向上に向けて、施設内外の研修会に参加し、職員の育成を図っている。施設内研修については、職員にアンケートを取り、聞きたい研修の中からテーマを選んでいく。外部研修に参加した職員より伝達講習や復命書の回覧で他職員も学んでいる。	資格取得に向けた費用面の補助や勤務扱いでの研修参加など職員の向上心を支える仕組みが整えられ、多くの職員が介護福祉士等の資格を有している。内部研修は職員アンケートをもとに委員会が企画し、外部研修は希望を募り積極的な参加を促し、全体の質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や勉強会に参加し、他施設職員と交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に会いに実調に行き、不安を軽減する為、その時点より本人の話や思いや要望、不安に思っている事等を傾聴し、開かれた質問等で利用者が話しやすい雰囲気作りに努めている。安心できる声掛けを行いながらコミュニケーションを多く図り、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約時に聞き取りやご家族様の話、悩みや不安に思っている事、意向や要望等を傾聴し、話しやすい雰囲気作りに努めコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に管理者が行っており、本人やご家族様の思いや要望を傾聴し確認した上で、ニーズや必要な支援を見極めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや洗濯物、掃除等、家事のお手伝いを職員や利用者様同士で一緒に行っている。1人1人出来る事を把握し力に応じた作業を行って頂き、共に生活をする者としてお互いに支えあえる環境作りをしている。日常生活動作の練習等も楽しく意欲をもって行えるよう支援している。レクリエーションや行事、クラブ等で一緒に楽しむ時間を設けている。	利用者の生活歴や日頃の会話から、やりたいことや得意なことを把握してクラブ活動や家事活動などを職員と一緒にしている。自ら積極的に取り組む利用者もおり、互いに助け合い「ありがとう」と声を掛け合う姿や笑顔がみられ、やりがいや達成感を得られる支援を実践している。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の困りごと等については、都度ご家族様に相談し、一緒に解決するようにしている。面会時に日々の状態を報告して共有したり、毎月お手紙を書き近況報告を行っている。医療機関の受診や自宅等への外出等も連携を取り協力して頂ながら行っており、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親族以外でも知人の面会等があれば、本人やご家族様了承の上、受け入れており、これまでの良い関係が継続できるよう支援している。馴染みの美容室に今まで通り通っている利用者様もいる。居室へ写真等を飾り、忘れないよう本人との会話のきっかけにしている。	かかりつけ医の受診や行きつけの美容室などへの外出など、これまでの生活が継続できる支援を行っている。また地元の祭り等の見学や文化祭への作品出展、敬老会に三味線演奏のボランティアを招くなど、地域との交流を大切にし、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や生活歴、感情の変化を把握、理解した上で利用者様同士の相性や関係性を配慮し、利用者様同士が楽しみながら関わり合えるよう努めている。関係によっては必要に応じて職員が介入し、事前にトラブルを防いでいる。席等も関係によって配慮し、ユニット間を自由に行き来し遊びに行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談等のアフターフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とコミュニケーションを図りながら、一人ひとりの思いを大切に希望の把握、理解に努め、本人本位の暮らしが送れるよう可能な限り本人の希望に沿った暮らしを送れるよう検討している。センター方式のアセスメント用紙を用いて聞き取り等を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴や環境、利用していた介護サービス等を可能な限り本人から聞き取りを行い、ご家族様やケアマネージャー等からも情報収集を行っている。起床時間や食事時間等も利用者様の希望に合わせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察や1日2回以上のバイタル測定をしっかりと行い、一人ひとりの心身状態の把握に努め、体調管理を行っている職員全体で申し送りや連絡ノートを活用して周知情報共有している。日常生活上で行われている会話での言動や表情等からも変化等を汲み取っている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるために、必要な関係者と話し合いや意見交換等を行い、定期的にモニタリングにて達成状況を評価し、新しい介護計画を作成している。毎月行われるユニット会議にて、利用者様一人ひとりについて話し合いが行われ、介護計画作成に反映させている。	日々のケアから得た情報をもとに現状を把握し、3か月ごとの評価や本人・家族等の意見を反映した介護計画書を作成している。毎月のユニット会議で全利用者の検討を行い、看護師からも留意点などの助言がありプランに反映させている。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や様子、状況等を個別で記録へ記入を行い、職員間で情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直し・作成に活かしている。いつもと違うところはないか等、少しの変化に気づき見逃さないよう観察を行い、ささいな事でも記録に残し情報共有を行っている。	利用者個別の介護記録のファイルに介護計画書を綴じ、職員はプランを意識してケアにあたり記録している。また申し送りノートには連絡事項など職員全員が把握すべきことを記載し共有している。記録は正確に・詳細に書くことを意識し、個性を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者様一人ひとりの状況やニーズに応じて、柔軟に対応・支援を行っている。</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の文化祭へ作品を出展する等し、行事などへ参加している。施設の防災訓練等に消防署員や自治会長より参加・講評して頂く等、協力関係を築いている。</p>			
30		<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族様の希望に応じ、受診などを行っており、その際医師に情報提供を行っている。毎月往診にも来て頂いている。発熱などの体調不良時も医師と連携し適切に受診などの対応が行えている。</p>			
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>少しの変化でも看護師へ報告を行い、指示を受け適切な対応が出来るよう努めている。その内容を全職員へ申し送りや連絡ノートを活用し周知・共有している。</p>			
32	(10)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は病院へ看護サマリーを提供している。入院から退院に向けて主に管理者が病院関係者やご家族と情報交換や相談等を密に行い、状況を確認し調整を行っている。退院が決まった際は事前に実調に行き、スムーズに退院後のケアが適切に行えるよう支援している。</p>	<p>入院の判断は看護師が主治医に相談し、入院となった際には看護サマリーを医療機関に提出し治療に繋げている。地域の病院とは連携体制があり、管理者や看護師が入院中の現状把握に努めるとともに、状態変化に伴う受け入れ体制の整備や本人・家族等の意向に沿った支援を行っている。</p>		
33	(11)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に本人やご家族様へ急変時や終末期の在り方についての希望や要望の確認を行っている。当施設でできる事と出来ない事を説明し、状態変化に合わせその都度再度方針の確認を行っている。医師や看護師とも連携し、助言を頂く等行っている。その旨、全職員に連絡ノート等を活用し周知・共有している。</p>	<p>契約時に「終末期をどこで迎えたいか・積極的な延命治療を望まれるか・急変時緊急搬送を希望するか」などを可能な範囲で確認している。状態に応じて、主治医とも連携しながら意向を再確認し、重度化した利用者は機械浴を使用するなどの支援に取り組み、常時医療行為が伴わなければ看取り介護も行って利用者・家族等を支えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的施設内研修を行い、救命救急やAEDの使用方法を勉強し緊急時に慌てず対処できるよう備えている。緊急時マニュアルをスタッフルームに張り出し、いつでも確認できるようにしている。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、利用者様と共に防災訓練を行い、災害時に備えている。消防署員や自治会長にも立ち会いをして頂き講習を頂いている。	春季と秋季の防災訓練は、火災時・早朝の地震時など想定を変えて実施し、火災時には消防署の立ち会いがあり講習も得ている。また職員からの感想や反省からヘルメットなどを準備するに至り、炊き出しや発電機の稼働訓練も予定して災害に備えている。	災害時の非常時持ち出し品には利用者情報も準備してあるが、さらに現在服用している薬の情報なども加えて、常に更新しながら備えていくことに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し相手を尊重した声掛けを行っている。敬語を使用し目線を合わせる等し、そぐわない発言等がないか虐待自己チェック表を実施し、お互い注意しあっている。個人情報に関する事は小声で話す等し他者に聞こえないよう配慮している。一人ひとりの人格を常に意識しながら尊厳を傷つけないように言葉を選び声掛けを行っている。	自己点検チェックシートには「プライバシーを損ねる行為」「他職員のケアや態度に疑問を思ふことは」などもあげられており、評価結果とその対策、また良いと思うケア・真似したいケアに視点をむけて総括され、より良い介護に取り組み、尊厳ある姿を大事にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服を選んで頂いたり、分かりやすいように提案を行い、自己決定を促している。相手や場面によって開かれた質問、閉じられた質問を行い、利用者様の思いを引き出し、意思表示しやすい環境づくりに努めている。意思疎通が困難な利用者様に関しては言動や表情等から思いを汲み取り対応している。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の有無など、本人の希望やペースを大切に心地よい生活が送れるよう支援している。一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、本人の希望やその日の体調や気分、状態に応じ臨機応変に変更し本人の希望に添えるよう支援をしている。本人の思いを尊重し、無理のないよう声掛けを行い、必要時は個別対応を行っている。	一人ひとりの生活歴やライフスタイルなどを把握して、これまでの暮らし方が継続できるように個別対応で支援している。レクリエーションや行事の際は皆に声掛けはしても、居室のテレビでスポーツ観戦をしたい方などもおり、本人の望む暮らしを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のこだわりや好みを尊重し、清潔感を心掛け季節に応じた衣類を選べるよう支援し身だしなみを整えている。離床時に髪や衣類を整えている。散髪も希望の長さにして頂いたり、ヘアピンを使用したり、服装を選ぶ時は上下のコーディネートも考えている。入所前から利用していた美容室に継続して通い、ヘアカラー等を行っている方もいる。行事の時は化粧や髪飾りをしたり、おしゃれを楽しめるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会が利用者様に対し嗜好調査を行い、献立に取り入れている。パンバイキングや行事食など、旬の食材を取り入れ食事を通して季節を感じ、楽しみながら食事ができるよう工夫している。米とぎや野菜の皮むき等の簡単な調理や盛り付け、食器拭き等を一緒に行っている。バスレクにて外食も行った、自宅へ帰ってご家族様と食事をする機会も設けている。	「食事は一番の楽しみ事」として特に力を入れており、行事食は季節の食材を使い「お花見御膳」「お盆御膳」など毎月趣向を凝らして提供している。利用者は米とぎを日課にしている方もおり、それぞれ得意分野で腕をふるい職員は労いの言葉で応えている。嗜好調査では食べたい菓子などもあがりお茶の時間に取り入れて喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスが良いメニューを提供し、一人ひとりの状態や量を把握し、利用者様が安全に楽しく食事ができるよう支援している。食事量や水分量を温度板等にて把握し、健康管理に努めている。水分摂取が少ない方には好みの飲み物やゼリーを提供する等、無理なく摂って頂けるよう工夫している。禁止食や好き嫌いを把握し、食べやすい形状にカットしたりソフト食にて提供する等、一人ひとりに合わせた食事形態にて提供し、必要量を摂取できるよう支援している。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた支援方法で、毎食後口腔ケアを行っている。必要に応じ、みがき直しや介助を行っている。舌苔除去のケアも行い、口腔内の清潔保持に努めている。必要時、訪問歯科にて治療を行っている。	毎食後口腔ケアを声掛けして実施し、職員は介助が必要な方のサポートを行い清潔保持に努めている。口腔状態を観察し、ユニット会議で共有しながら、看護師や家族等に情報を提供して早期受診に繋げている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないよう声掛けを誘導を行っている。体操や歩行訓練等を行い下肢筋力低下防止にも努めている。夜間はオムツ対応している方も、日中は職員2名でトイレ介助する等、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。	できる限りトイレでの排泄ができるように体操で下肢筋力の維持を図り、重度の方も日中はオムツをしないで二人介助で便座に座り快適に過ごしている。また同性介助やトイレの外で見守るなど羞恥心やプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、便秘の方は主治医と相談し、下剤や座薬を調整し排便コントロールがスムーズに行えるよう支援している。水分を多く摂ったり牛乳や朝食前に冷水を提供したり運動を行い、便秘予防に努め自然排便を促している。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴を行い、一人ひとりの好みのお湯の温度や入浴にかかる時間を把握し、ゆっくりと入浴が楽しめるよう支援している。その日の体調や気分に合わせて入浴日を変更している。冬至にはゆずを浮かべたり季節感を味わって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況・状態に応じ、居室やソファでくつろぎ、休息がとれる環境を整えている。夜間、安眠できるよう室温・湿度・居室の明かり等の環境を整えている。日中の活動を促し、夜間はゆっくり休んで頂けるよう支援している。気候やその日の気温に応じ、寝具を調整している。不眠や夜間に不穏がある方には頓服薬を服用して頂き、安眠できるよう支援している。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴、内服薬の用法や用量、副作用を把握・理解し、間違いなく服用できるように確認しやすいケースに入れたり3名以上で確認しながら服薬介助し、飲み込むまで見守り確実に服薬できたかの確認を行っている。内服薬が変更になった際は、申し送りや連絡ノートにて情報共有し、体調等に変化がないか気を付けて状態把握に努めている。	薬事情報は個人ファイルに綴じ、それぞれの担当職員が薬の内容を理解しながらセットして、看護師、服用時とチェックを重ね誤薬防止に努めている。看護師からは飲み合わせによる禁止食などの説明があり申し送りで共有しながら、些細なこともヒヤリハットや事故報告にあげて検証する体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている力や得意な事を把握し、その時の状況に応じて家事や活動の場で役割を持って頂き、感謝の気持ちを伝える等行い達成感や充実感を得られるよう支援している。近隣を散歩したりドライブに出かけ気分転換を図っている。一人ひとりの生活歴を把握し、趣味等、楽しみ事も継続したり、興味のある事を勧めたり生き生きと暮らせるよう支援している。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣を散歩したりドライブに出かけ季節感を味わったり気分転換や地域交流を図っている。ご家族様と相談しながら自宅に外出一緒に食事をしたり、療養する時間を設けている。帰宅願望が強い利用者様については、一緒に外に出て気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、お金は所持していない利用者様が多いが、職員はお金を持つことの大切さは理解できている。お金を所持する事で安心感を得られる方に関しては少額のみご家族様と相談して所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を尊重し、要望があれば電話を取り次いで、ご家族様とやり取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着く配色の空間で、室温、湿度の調整や適宜換気を行い、快適に過ごして頂けるよう調整し、心地よくリラックスして過ごせるよう環境整備を行っている。季節感がある壁紙の装飾や生花を飾る等し生活に彩りを添えながら温かい家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう努めている。施設内は毎日掃除を行い、清潔を保っている。トイレの場所などを分かりやすく表示している。	事業所内は梁や床、扉など落ち着いた色調で統一され、異国情緒ある廊下は天窓からの自然光がやさしく入り、中庭からの光がさすダイルームと合わせて心地良い共用空間となっている。コの字型にソファが置かれたダイルームでは、皆でワイワイとレクリエーションを楽しむ姿が見られ、毎日を活動的に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の落ち着く好きな場所でテレビを見たり、新聞や本を読んだりしながらくつろいで頂いている。ユニット間も自由に行き来し、仲の良い利用者様同士で過ごせるよう支援している。居室や廊下のベンチにて一人になれるよう居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の環境整備に心掛け、写真や自作の作品を飾ったり、心地よい空間づくりを心掛けている。自宅で使用していたテレビやラジオ、シルバーカー、アルバムや本等、本人の馴染みの物を持ち込み、引き続き使用して頂いている。遺影や仏壇を持参し、毎日水あげをしている方もいる。利用者様がその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室づくりを心掛けている。	居室にはベッド、整理ダンス、床頭台の他、時間を見て行動できるように掛け時計も備えており、入口のやさしい花の絵札が目印になっている。自宅に近い環境づくりを心掛け、持ち込んだ馴染みの物などは安全面に配慮して設置し、職員から毎年贈られる誕生日プレゼント（写真入り）を飾ったりして、居心地良く暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やホール環境を整え、自己のリスクを減らせるよう努めている。トイレの場所などを分かりやすく表示して利用者様が迷わないよう工夫している。入室等が分からなくなる方に関しては、目印や名前を貼ったりして理解できるようにし、安心して自立して生活ができるよう支援している。一人ひとりの能力を的確に把握し、その方に合った補助具を使用している。		